



昭和46年11月27日

特許庁長官殿

1. 考案の名称

明細表

ベツドホーン用通気性耳当て

2 実用新案登録請求の範囲

1. 考案の名称

ヨウゾウキセイミシ
ン用通気性耳当て

齊家第2

實用新案登録出願人と同じ

3. 實用新案登錄出願人

静岡県沼津市千本線町1910
ヌマズ・シセンボ・ミドリフユウ

田中力價

4. 添付書類の目録

(1)	明	細	書	1	通
(2)	函		面	1	建
(3)	題	寄	副本	1	通

3. 法案の詳細な説明

本考案によるヘツドホーン用通気性耳当ては、通気性と弾力性を有する発泡樹脂材で構成される円板形耳当て本体の正面及び側面を、伸縮性布で収縮力を保持させて被覆し、この伸縮性布の端本と、前記円板形耳当て本体の背面に重ね合わせた円環形の柔軟性被覆ツバの外縁とを加熱溶着又は縫合した構造の耳当てに關する。

從來、ヘッドホーン用耳当ては多種あるが、い

づれも弾力性を有する発泡樹脂材全体を、通気性及び吸汗性のないビニールシート等で被覆し、ヘッドホーンとの嵌着部を別個に設けたものや、発泡樹脂材を複層に被覆して嵌着部を構成した構造のものが多かつた。

従つて通気性、吸汗性に之しく弾力性をも削減し、かつ製造工程が複雑化したので実用上及び生産上種々の欠点を有していた。

本考案による耳当ては、従来品の欠点を改良しかつ生産工程を効率化するものである。

以下図面により本考案による耳当てを説明する。第1図は本考案による耳当ての側断面図、第2図は外視図を示し、通気性及び弾力性を有する発泡樹脂材で構成される円板形耳当て本体(1)の正面に伸縮性布(2)を重ね合わせ、その端部で更に耳当て本体(1)の全側面を被覆し、これと別に耳当て本体(1)の背面に円環形の柔軟性嵌着ツバ(4)を重ね合わせ、前記の伸縮性布(2)を伸した状態でその端末(3)と嵌着ツバ(4)の外縁(5)とを加熱溶着又は縫合して連結する。従つて伸縮性布(2)は常時収縮力が作用

するから、耳当て本体(1)の角は圧縮され、角は曲線を形成する。更に耳当て本体(1)の背面と嵌着ツバ(4)との間は嵌合されていないので、耳当て本体(1)の弾力性の利用によりヘッドホーンの嵌着用隙隙(6)が形成される。

この場合、伸縮性布(2)と嵌着ツバ(4)とを加熱溶着して接合させるときは、嵌着ツバ(4)は熱可塑性の柔軟性樹脂を主材又は表面処理材とした厚シートを使用して熱溶着を容易にする。

前述円板形耳当て本体(1)の形状は、第3図に示す如く円板形の発泡樹脂材に種々加工する事任意である。即ち(31)図は孔なしの円板形、(32)図は円環形、(33)図は細孔を多数穿設した円板形の実施例である。これら孔(8)は通気性を更に顕著にする効果を有する。

前述の伸縮性布(2)の端末(3)と、嵌着ツバ(4)の外縁(5)との接合又は縫合は、耳当て本体(1)を被覆した後行う事も、或は先づ接合又は縫合し、耳当て本体(1)を後で嵌合させる事も任意である。

又、接合又は縫合箇所は第4図(41)図に示す如

く露出させる事も、或は(42)図に示す如く裏返しにして内蔵させる事も任意である。

第5図は本考案による耳当てを、ヘッドホーンに装着した場合の状態を示し、弾力性を有する円板形耳当てで本体(1)と装着ツバ(4)とが接する装着用間隙(3)に耳当て本体(1)の弾力性と装着ツバ(4)の柔軟性とを利用してヘッドホン(7)の装着部を容易に挿入し装着する事ができる。

以上の通り、本考案による耳当ては耳当て本体(1)が発泡樹脂で構成され、人体の耳朶と接触する皮覆が伸縮性布(2)であるから、弾力性、吸汗性は勿論、特に通気性に富み、更に発泡樹脂材が不快な高音に如する音響フィルター効果を有する等、すぐれた実用性を発揮する耳当てである。又、耳当て本体(1)は弾力性を利用して自由に装着又は脱去する事ができるから耳当て内部の清掃や消毒も極めて容易に行う事ができる。又、極めて単純な構造であるから製造工程を著しく効率化し、価格を低廉にする事となる。

4. 図面の簡単な説明

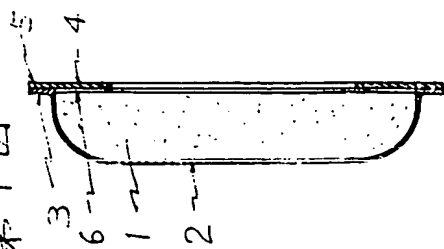
第1図は本考案によるヘッドホン用耳当ての側断面図、第2図は外視図、第3図は発泡樹脂材でなる円板形耳当て本体の平面図、第4図は耳当て本体を内蔵した状態の実施例、第5図は本考案による耳当てをヘッドホンに装着した場合の状態を示す。

実用新案登録出願人

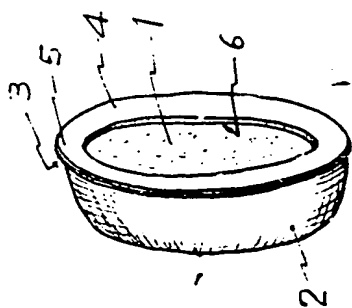
田 中 信 吉

BEST AVAILABLE COPY

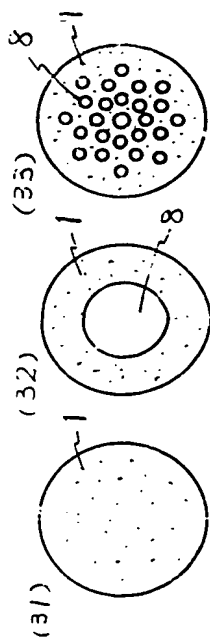
第1図



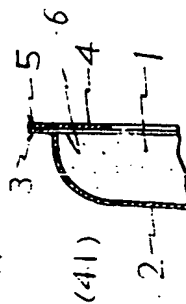
第2図



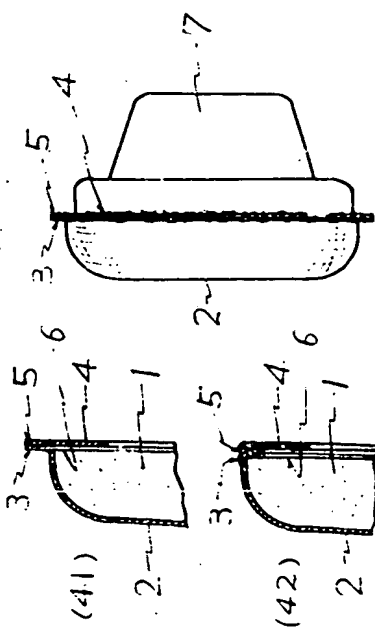
第3図



第4図



第5図



実用新案登録出願人

吉 信 中

68523